



口打井川

くちうついがわ



打井川地区は、予土線打井川駅周辺から、打井川に沿って南へ直線距離で7km以上（道なりに行けば10km以上）に渡り、南限は黒潮町に接する。峠の向こうは伊与喜である。また、東限は上宮、さらに家地川及び黒潮町市野々川、西限は四手ノ川及び上岡に至る。人家は、国道381号沿いから打井川に沿って点在していて、地区が長く広いため、四万十川に注ぐ打井川最下流から、南（上流）へ向かつて、口打井川、中打井川、奥打井川に分かれている。現在は打井川という表記であるが、戦国期の記録では宇津井川と記されている。今号は口打井川である。口打井川は、前述の通り、打井川最下流域に位置しているため、北ノ川とのつながりが深い。打井川小学校（現ホビ―館）があった時代も、口打井川の子どもたちは北ノ川小学校に通った。上宮の沈下橋ができるまでは、渡し舟を使って通ったそうである。

口打井川にも、以前は四万十川にかかる沈下橋があった。昭和25年に、現在の抜水橋のすぐ西に造られた。（抜水橋ができたのは昭和53年である）この場所は浅瀬になっていて、昔はここを歩いて渡っていたという。江戸後期か明治初期のこと、村の「お兼」という女性が、幼子を背負って渡っていたところ、誤って流されてしまうという事故があり、これをとても不憫に思った村人たちが、親子の供養と安全祈願のために、川の両岸に一体ずつ地蔵を作った。岸の両側から見合うように、川を渡る人々を見守っているため「見合地蔵」という。

さて、地区の産土神は「河内神社」

である。各地区紹介の折に度々明治23年の水害について書くのだが、ここにある棟札にも、そのことに関するものがある。水害直後に、地区の人が後世のために書き残したもので「後年二至り知ル為記シ置」から始まる。

この河内神社の境内に、今年（2021年）「口打井川の馬之助神社」を移設した。元は、車越（くるまこえ）という高台にあった。そもそもは中打井川の馬之助神社が本元であるが、その昔、口打井川の村人に馬之助の霊が「どこか太鼓の聞こえるところに祀ってくれ」と告げ、それを受けて祀られたのが、口打井川の馬之助神社である。この車越という所は、上宮の太鼓も、上岡の太鼓もどちらも聞こえる場所であることから、この高台になったのだという。今年、河内神社の境内に移すときも、「元の場所と同じくらしいの高さのところに」という地区の方たちの配慮があったらしい。

また、戦国期には、この口打井川にも山城があったようである。その近くに五輪塔が三基あり「五輪様」と呼ばれている。ここに「吉祥庵」というお寺があったという戦国期の記録があるので、もしかしたら、この五輪塔は、山城の主のものかもしれない。



河内神社の境内に移された口打井川の馬之助神社

町のうごき	(4月30日)		前月比	出生	死亡	転入	転出	適正值(mg/l)	5月14日	
	男	女							男	女
	7,771	8,529	+4	6	4	27	25	≤ 1.0	測定範囲以下	
	8,529	16,300	+1	3	9	26	19	≤ 0.5	1.156	
	16,300		+5	9	13	53	44	≤ 5.0	測定範囲以下	
	8,306		+16	(4月中の届出)				≤ 1.0	2.273	
	11,564人	2,258人	2,478人					化学的酸素要求量	≤ 10.0	0.10